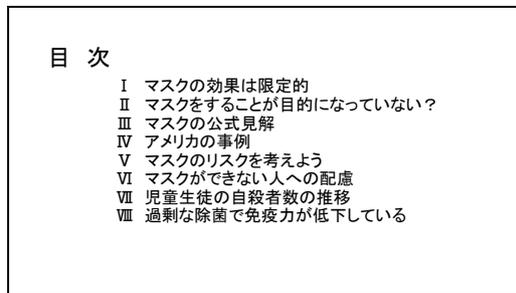


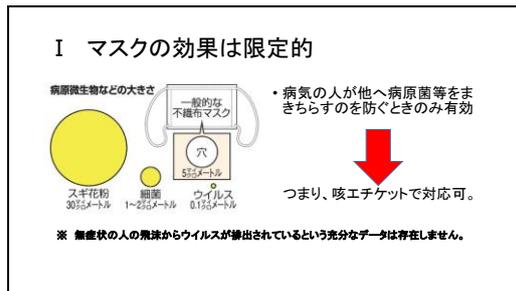
スライド 1



スライド 2



スライド 3



スライド 4

II マスクをすることが目的になっていない？



体温あがる 熱こもる
眼痛くもる

車内での一人の場合、誰にも感染させない

ウイルスは目先に当たれば2分で感染する

スライド 5

III マスクの公式見解①

厚生労働省・経産省・消費者庁



※マスクを常用するようには、
言っていない。
むしろ、これからは熱中症を
おこす危険があると啓発！

スライド 6

各機関の公式見解②

WHOの指針(2020. 4. 6時点)

健康な一般市民が日常生活でマスクを着用することで「感染を予防できるという根拠は、現在のところ存在しない。」とあらためて強調し、医療現場以外での過度のマスク使用を控えるように求めた。

スライド 7

各機関の公式見解③ 北海道教育委員会

北海道教育委員会にマスクの着用が新型コロナウイルスの感染拡大防止に効果があるという根拠を科学的に立証する文書を開示請求した方に対する公文書不存通知書

スライド 8

各機関の公式見解④ 文部科学省

文部科学省にマスクの着用が新型コロナウイルスの感染拡大防止に効果があるという科学的根拠を示す文書を、令和2年11月3日時点での最新の福祉、保健局となる文書) 公文書不存通知書(11) 宛、不存としました。

スライド 9

文部科学省に電話で確認(2021.4.7)

知人が直接、文科省 初等中等教育局 健康教育・食育課 担当のミヨシ様に「学校におけるマスクの着用について」見解をたずねた。

- 「児童が息苦しさを感じているときにも必ずマスクを着用させるように」とは、通知・案内していい。
- 児童に応じた対応をすることをお願いしている。
- 熱中症のリスクがある状況でなくとも、児童本人が息苦しさを訴えるようなら、外すこともやむを得ないという認識。
- ガイドラインでは「幼稚園において特に留意すべき事項について」の章で「本人の動きが速い場合や、持続的なマスクの着用が難しい場合は、無理して着用させる必要はない」と記載している。入学間際のお子さんについては、小学校の先生に、この考え方にならって、しばらく様子を見てもらいたいと伝えてくださって結構です。
- 高学年の子どもについても「息苦しい際にはマスクを外す対応をしてください」とお願いしている。
- 子どもの健康や、子ども本人が抱く違和感・危機感に応じた対応が第一という立場である。

スライド
10

IV 海外のマスク事情

○スウェーデンはマスクなし・ロックダウンなしで収束。

スウェーデンの公衆衛生当局は、マスクは社会全体に使用を奨励するほどウイルスの感染抑制効果がなく、ソーシャル・ディスタンス（対人距離の確保）と手洗いを続けることの方が重要だと主張している。

○イギリスはマスク着用を義務化したのが、市民の抵抗感が強く着用は少数。

○アメリカではマスク着用を法律で決めたが、その後効果を認められず、州の半分(24/50)はノーマスクに。

スライド 11

アメリカのマスク着用実態

青が完全マスク、赤が半マスク、緑が何レベルのマスク義務なし、大半はマスク完全禁止。



スライド
12

V マスクのリスクを考えよう

◎呼吸への負荷と酸素欠乏

○平常時の酸素は20~21%

●マスクをつけると17.4%に減



※ 労働環境に必要なレベルが19.5%

19 酸素が低酸素にさらされると、不可逆的なダメージを受け、元の状態にはもどれなくなる。

◎二酸化炭素の再吸収

- 「呼吸の再吸入により酸素が欠乏し、かつ、大量の二酸化炭素が発生する。**人間の脳は酸素欠乏に対して極めて脆弱**である。」
- 「酸素欠乏の急性症状としては、頭痛、眩暈、めまい、集中困難、反応遅延がある。しかし酸素欠乏が慢性的になると、これらの症状は消失する。“慣れる”からだ。しかしもちろん問題が解決したわけではない。呼吸能率はあいかかわらず低いままだし、脳への酸素供給不足もずっと続く。」

◎放熱の抑制
 私たちは呼吸をすることで、水蒸気を吐き出し、体の熱を逃がす。
 (不感蒸泄) 1日に1リットル
 (体重1kg当たり15ml。体温が1°C上がると15%アップする)



- ・息苦しい→口呼吸→汚れた空気がのどに直接进入
- ・身体に有害なものを再吸収
- ・唾液の分泌量低下
- ・皮膚のかぶれ
- ・肺機能障害
- ・嗅覚の低下
- ・歯周病
- ・口臭
- ・虫歯



免疫力低下

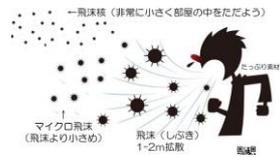
◎マスクは不衛生

飛沫の行方比較

一飛沫核 (非常に小さく部屋の中をただよう)

大きな飛沫は重いので、すぐ下に落ちる。
 小さな飛沫は空気中を漂うが3時間で失活する。床をなめるわけではないので、多少のウイルスを吸い込んでも免疫で撃退できる。

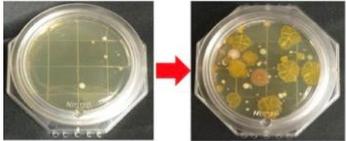
マスクをした場合、表面でウイルスは7日間生きる。マスクを通過することで霧状の細かい粒子エアロゾルとなり、電機にまき散らし、器管の奥へ到達し、重症化しやすくなる。



マイクロ飛沫 (飛沫より小さい)
 飛沫 (しぶき) 1-2m拡散
 飛沫核

スライド
16

◎菌の繁殖



約8時間使用後、マスク表面の付着菌を培養

長時間、マスクを着用することで細菌性肺炎や真菌感染症が増加中。

スライド
17

◎マスクの素材による悪影響

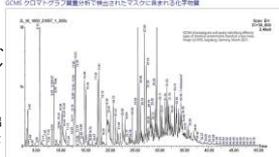


【ポリウレタンマスク】
素材の一部に使われているイソシアネートは猛毒で長期間の使用によりアレルギー性喘息、中枢神経系、心血管系の症状を引き起こす可能性があり、トルエンの一万倍の毒性がある。製造段階で完全にポリマー化していれば揮発しない。(国内の医師)

【布製マスク】
ベビーウェアの素材には厳しい化学基準があるが、その他はハザードテスト(有害事象試験)に合格していない。(ドイツの科学者)

スライド
18

【不織布マスク】



マスクから発がん物質のアニリン、ホルムアルデヒド、光学増白剤、ブタンオキシム、パーフルオロカーボン、ブロックジイソシアネートなどの有害化学物質を検出

またポリプロピレン繊維が機械的な摩擦から、マイクロプラスチックの放出を引き起こす可能性があり、粉塵を肺深く吸い込む危険がある。(ドイツの繊維化学者) ※世界のマスクの85%が中国製

スライド
19

◎表情というコミュニケーションツールが奪われる

- ・言語能力の未発達な幼児は、表情から感情を読み取る。ともだちの顔がマスク姿で記憶される。
- ・発達障害等の子どもはマスクで顔が半分見えない状態は顔の半分がないものと認識して怖がる。
- ・乳児をみている保育者はモグモグと口の動きを見せないと食べものを丸飲みにしてしまう。

特に、**人格形成にとって重要な時期**である子供への影響は大きい。

スライド
20

ドイツの神経生理学者が警告

人間の脳は酸素不足に非常に敏感です。例えば海馬には酸素がないと分り上も生きられない神経細胞があります。急性の警告症状としては、頭痛、眩暈、めまい、集中力の低下、反応時間の遅下、認知システムの反応などがあります。しかし、慢性的な酸素不足になると、これらの症状はすべて消えませんが、脳の酸素不足は進行し続けます。そして、数か月後、自由に酸素を吸えるようになったとしても、死んだ神経細胞はもう再生されません。子どもが学習するには脳が必要であり、肺が機能するためには酸素が必要です。このことは健康の糸の切れない生理学です。

神経毒性学、環境医学、神経再生と神経可塑性を特に研究。薬理学の博士号を持つ、コンサルタント神経医であり神経生理学者

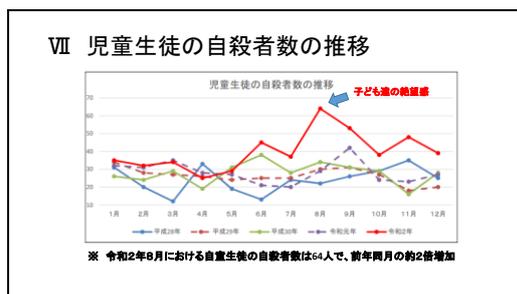
スライド
21

VI マスクができない人への配慮

感覚過敏の一例		感覚過敏の原因となる病気
視覚過敏	蛍光灯やスマホの画面、太陽の光で体調が悪くなる	①発達障害
聴覚過敏	大きな音、騒ぐ声、電卓や教室などで音が体調が悪くなる	②HSP ハイパーセンシティブ パーツ
嗅覚過敏	香水、食べ物においなどで体調が悪くなる	③うつ病
味覚過敏	食べられるものが種類に少ない	④認知症
触覚過敏	服の縫い目やタグが苦手、服が重く感じる	⑤脳卒中などの脳の病気
		⑥交通事故などによる脳への影響

生まれつきの特性だけでなく、後天的に発症する場合もあるので、子どもに限らずマスク着用の強制はあってはならないと考えます。

スライド
22



スライド
23

VIII 過剰な除菌で免疫力が低下している

現在は日常生活のあらゆる場面で抗菌グッズが使われています。それ以外にも抗生物質やうがい薬など微生物を強力に排除します。清潔志向の根拠にあるのは「自分以外のものは汚い」という考えです。これは自己中心的な考えのベースとなり、行儀過ぎる社会風土になります。

実際には、身のまわりのすべてのものは、細菌などの微生物に覆われており、除菌や滅菌をしなくても体に悪さはしません。むしろ手の表面にいる良い菌がバリアを作って、悪い菌から守っています。石鹸や消毒で手を洗うとバリアが壊れてしまうけど、12時間たつと元の状態に戻ります。ただし、消毒をし過ぎたり、薬用の石鹸で洗い過ぎるとバリアがでず、手が荒れて、細菌が付きやすくなります。

スライド
24



スライド

25

からだが未成熟で代謝が活発な子どもへの影響が深刻。
子どもの健康を守るには...立ち止まって考えよう！



マスクは不潔
マスクで呼吸困難
マスクは無意味

スライド

26

ご視聴ありがとうございました！
すべては「子どもたちの未来の為に」

